

# 令和7年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立日出谷小学校

## はじめにお読みください。

### <調査の結果をご覧になる方へ>

各小学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。  
学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。
- (4) 桶川市ホームページ内にて、桶川市の結果概要等が掲載されていますのでご覧ください。

URL: <https://www.city.okegawa.lg.jp/soshiki/kyoiku/gakkoushien/oshirase/about/1446.html>

## <全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

### 1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査対象

小学校第6学年、原則として全児童

### 3 調査実施日

令和7年4月17日(木)

#### 4 調査の内容

(国語、算数、理科) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校調査は、国語、算数、理科とする。</li> <li>・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等</li> <li>② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容</li> </ul> </li> <li>・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。</li> </ul>	
	【小学校 国語・算数・理科 各45分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など
	【20分程度】	

### 小学校

＜教科に関する調査＞   は全国平均正答率を上回ったもの



国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	2	84.0	77.5	76.9
情報の扱い方に関する事項	1	66.7	64.8	63.1
我が国の言語文化に関する事項	1	82.7	81.5	81.2
話すこと・聞くこと	3	62.2	67.3	66.3
書くこと	3	66.7	71.1	69.5
読むこと	4	61.3	58.4	57.5

算数				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	8	61.3	63.1	62.3
図形	4	52.0	54.7	56.2
測定	2	42.7	53.9	54.8
変化と関係	3	51.6	57.9	57.5
データの活用	5	58.7	63.4	62.6

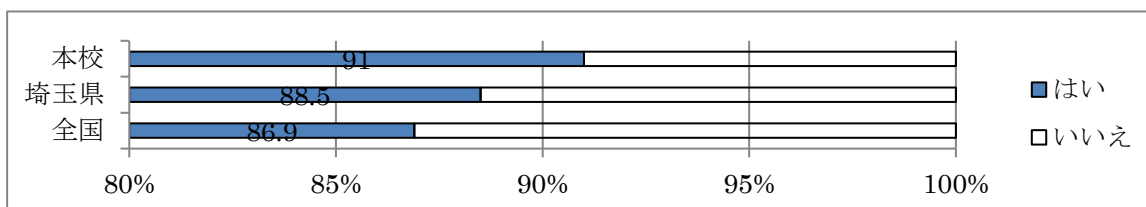
理科				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
「エネルギー」を柱とする領域	4	41.3	46.6	46.7
「粒子」を柱とする領域	6	50.2	52.7	51.4
「生命」を柱とする領域	4	50.0	53.1	52.0
「地球」を柱とする領域	6	66.2	67.7	66.7

### <児童への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

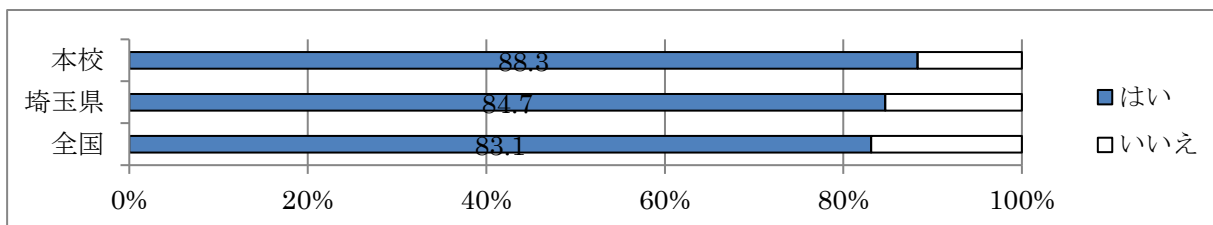
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

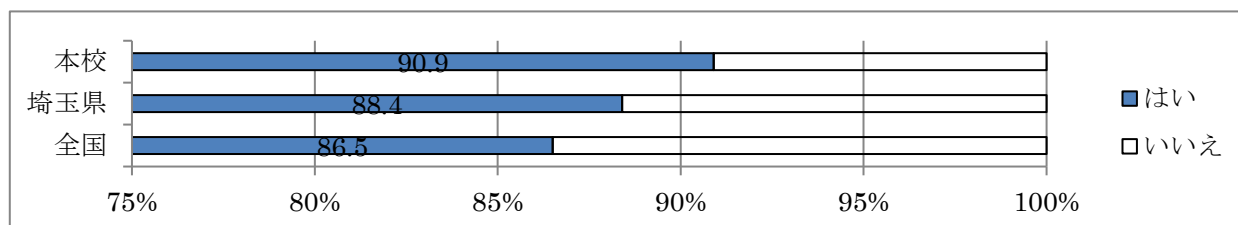
自分には良いところがあると思いますか。



将来の夢や目標を持っていますか。



学校に行くのは楽しいと思いますか。



## <国 語>

### 【分析の概要】

今年度は、4つの領域等で全国平均・県平均を上回りました。特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」に関しては、大幅に上回りました。しかし、「話すこと・聞くこと」に関しては、昨年度同様に全国平均・県平均を下回っており、本校の課題と言えます。

### 【問題 3二(2)】

#### 問題の概要

資料3を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する。

【木村さんのメモ】

言葉の変化について分かったこと

「あたらしい」は新しい形

(奈良時代) あたらし ↓ (平安時代) ア ↓ あたらしい (今)

時代とともに言葉の形が変わる。

とてもできる?できない?

(室町時代) どうせ ↓ どうしても、どうてい ↓ 非常に (今)

イ

- (1) 【木村さんのメモ】の「ア」の中に入る適切な言葉を【資料2】の中から書きぬきましょう。
- (2) 【木村さんのメモ】の「イ」に当てはまる内容として最も適切なものを、【資料3】を読み、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 時代とともに言葉の意味が変わる。
  - 時代とともにものの使い方が変わる。
  - 世代によってもものの呼び方がちがう。
  - 世代によって言葉の使い方は変わらない。

【資料2】

「あたらしい」は新しい形

「ふんい」ということは「ふんい」といふ人が多くなりません。こう言うと「たいへんだ。日本語がこわれてしまふ」と思っている人もいません。でも、心配しないでください。にたようなことは、昔からよくあることです。「でんぱかり、まだふんい」という意味で、私たちは「新しい」と言いますが、大昔の奈良時代には「あたらしい」と言っていました。今でも「新しく」という意味で「あたらしい」と言うでしょう。「あたらしい」は、大昔から使われていた「あたらしい」が、次の平安時代には「あたらしい」と「あたらし」になりました。「あたらしい」は「あたらし」に比べて「あたらし」は新しい形です。それが変化して、今では「あたらしい」になりました。

(飯間浩明「日本語をつかえろ」による)

【資料3】

とてもできる?できない?

今、あなたは「勉強がとてでもない」という言い方を覚えたとは思わないでしょう。「とても」は「非常に」の意味を表します。ところが、100年ほど前の大正時代、作家の芥川龍之介は、「とても安い」ととても安い」といふ言い方は新しいと書いています。それより前の時代には、「とてもかなわない」ととてもまどまらない」といふように、「とてもふんい」の形で言ったのです。つまり、大正時代よりも前は、「勉強がとてでもない」とは言わず、「はくには、そんなことはとてでもない」と言っていたんですね。この場合の「とても」は「どうしても」と言っているという意味を表します。

「こんな話を聞くと、「じゃあ、これからは「とてもできない」と言おう、「とてもできる」とは言わないようにしよう」と思うかもしれません。でも、その必要はありません。もっと古い時代、室町時代には、「とても」は「どうせ」の意味で使っていました。たとえば「とても散るべき花」と言えは「どうせ散る花」という意味です。これは昔の言葉だけで使おうと思ったら、現代では事なかくなってしまう。昔はどうだったか」を知ることが大事です。現代では「現代ではどう使われているか」を理解することも大事です。現代の人は、この言葉を現代で使うのが一番いいのです。

(飯間浩明「日本語をつかえろ」による)

正答 1

事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる問題です。全国平均よりも10%、県平均よりも8.7%高い正答率でした。日頃からの読書活動や様々な授業での問題を読み解く活動を通して、問題の意図を把握する力が身についてきていると考えます。

【問題 1三（2）】

問題の概要

【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する。

- (1) 「インタビューの様子の一部」の小森さんが――部アのように発言した目的として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。
- 1 自分が知りたいことをより具体的に知るため。
  - 2 質問する理由を相手に正しく伝えるため。
  - 3 自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめるため。
  - 4 相手が伝えたいことの中心を明確にするため。
- (2) 「インタビューの様子の一部」の小森さんが――部イのように発言した理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。
- 1 相手の答えは自分の予想どおりであることが分かったから。
  - 2 自分が聞こうとしていた内容のほかに、新たに聞きたいことが見つかったから。
  - 3 相手の答えと自分の考えを比べて、考えを深めることができたから。
  - 4 自分が共感した内容を取り上げて、話題を広げようと考えたから。

三 小森さんたちは、バスの運転士の岡さんにインタビューをすることにしました。次の「インタビューの様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましよう。

「インタビューの様子の一部」

小森さん 私たちは、働くことについて考えるために、興味のある仕事について調べています。今日は、岡さんの仕事についてうかがいます。どうぞよろしくお願いいたします。

岡さん どうぞよろしくお願いいたします。

小森さん はじめに、バスの運転士として岡さんが大切にしていることを教えてください。

岡さん バスはたくさんの人を乗せていますから、やはり、安全に目的地まで送り送ることを大切にしています。

小森さん 安全に運転することは大事なことです。ア 安全に運転するために、例えばどのようなことを心がけているのですか。

岡さん 道が混んでいると時刻どおりに運行できないこともあります。あわててしまうと、大きな事故につながりかねないので、落ちついて運転するようにしています。それに、バスの安全を守っているのは運転士だけではないんですよ。

小森さん えっ、そうなんですか。運転士のほかにどんな人がいるのですか。

岡さん 出発する前に、自分でもバスの点検をしますが、整備士も定期点検をしています。そのほかに、私たち運転士の健康状態を確認するなど、安全な運行を管理する人もいます。

小森さん イ なるほど。たくさんの方が、乗客の安全を支えてくださっているんですね。私たちは時間を守ることも大切だと思いましたが、私たちが思っていた以上に安全を第一に考えてくださっていることが分かりました。

清川さん バスの安全な運行のためには、大変なこともあると思いますが、いかがですか。

（インタビューが続く）

正答 1

自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題です。全国平均よりも6.5%、県平均よりも6.7%低い正答率でした。学習指導にあたっては、話し合いの展開や内容を踏まえて意見を整理したり、質問の意図を読み取ったりすることができるよう指導を充実させます。



## <算 数>

### 【分析の概要】

今年度は全ての領域で全国平均・県平均を下回っています。特に、「測定」に関しては、大幅に下回っており、「変化と関係」「図形」に関しても約5%程度下回っています。算数の学習に関しては、全ての領域に関して、学力を定着させることが大きな課題と言えます。

### 【問題 3 (1)】

#### 問題の概要

0.4+0.05について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く。

3

ひろとさんたちは、しょうすう小数やぶんすう分数のたし算について<sup>かえ</sup>ふり返っています。

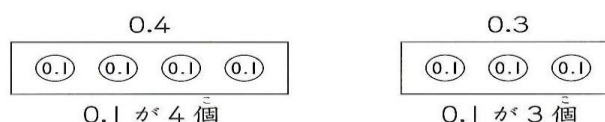
(1) ひろとさんは、 $0.4 + 0.3$ についてまとめています。



ひろと

0.4は0.1の4個分、0.3は0.1の3個分です。

0.1を①として下の図のように表します。



0.4 + 0.3の計算は、0.1をもとにすると、4 + 3を使って考えることができます。

$0.4 + 0.3$ は、0.1をもとにする数にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

つぎに、 $0.4 + 0.05$ について同じようにまとめます。

0.4は②の40個分、0.05は②の5個分です。

0.4 + 0.05の計算は、②をもとにすると、40 + 5を使って考えることができます。

上の②にはすべて同じ数が入ります。②に入る数を書きましょう。

正答 0.01

小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる問題です。全国平均よりも5.9%、県平均よりも3.3%高い正答率でした。日頃から基礎的・基本的な知識や技能が身につくように、授業だけではなく、家庭学習で取り組んでいる計算ドリルやICT機器を使った計算練習等に繰り返し取り組んでいる成果だと考えます。

【問題 4 (3)】

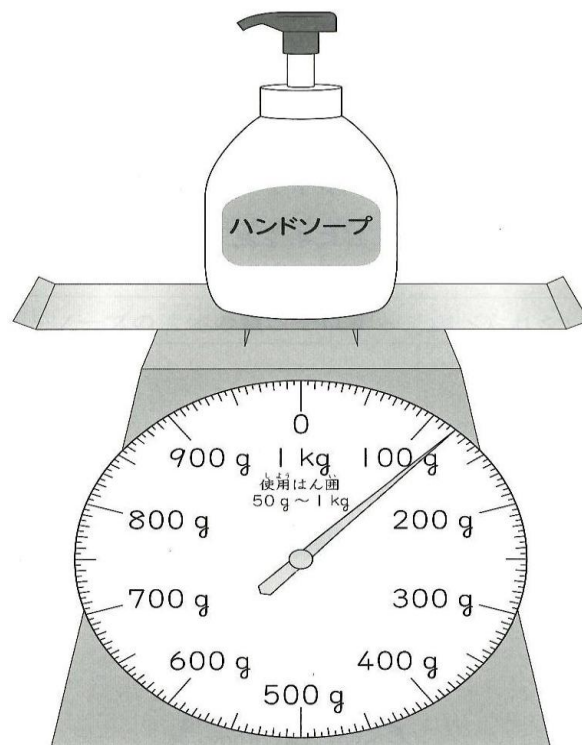
問題の概要

はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む。

- (3) あさひさんたちは、さらに別の容器のハンドソープの重さを調べています。  
そのハンドソープを容器ごとはかりにのせると、下の図のようになりました。

はかりの針が指している目もりは何 g ですか。

答えを書きましょう。



正答 120 g

はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題です。全国平均より 12.9%、県平均より 11.6%低い正答率でした。今後は具体物に触れながら目盛りを読むだけではなく、自分たちで持ち寄った身近な物を量って読み取ったり、問題を出し合って繰り返し学習していきたいと思います。

## <理 科>

### 【分析の概要】

本校は、4つの領域全てが全国平均・県平均を下回っています。特に、「「エネルギー」を柱とする領域」に関しては、大幅に下回り、本校の課題と言えます。

### 【問題 2 (3)】

#### 問題の概要

ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く。

いおりさんとてつやさんは、かね（ベル）について話しています。

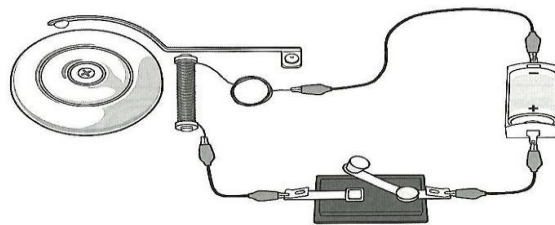
かね（ベル）の鳴る音が小さいので、音を大きくしたいね。電磁石の強さを強くして、かねを強くたたけばいいね。



いおり

電磁石の強さを強くするには、次のようにするといいね。

- ・電磁石のコイルの巻き数を変えたとしたら、巻き数を（ア）。
- ・かん電池を変えたとしたら、かん電池を2個直列つなぎにする。



てつや

(3) 上のふきだしの（ア）にあてはまることばを書きましょう。

正答 多くする

電流がつくる磁石について、電磁石の強さは巻数によって変わることを知識が身に付いているかどうかをみる問題です。全国平均より14%、県平均より11%高い正答率でした。「「エネルギー」を柱とする領域」に関しては、ほとんどの問題の正答率が低く、学力が定着していない傾向がありますが、昨年の実験で、自分でコイルを巻き、巻数の多い、少ないでモーター車のスピードが違ったと身をもって体験した結果から、この問題の正答率が高かったと考えられます。



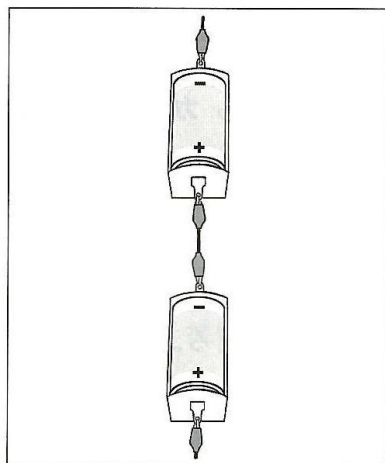
【問題 2 (4)】

問題の概要

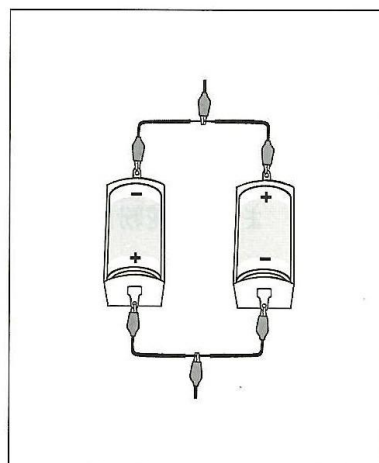
乾電池 2 個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ。

- (4) かん電池 2 個を直列につなぎ、電磁石の強さを最も強くできるのは、  
どのようなつなぎ方ですか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、  
その番号を書きましょう。

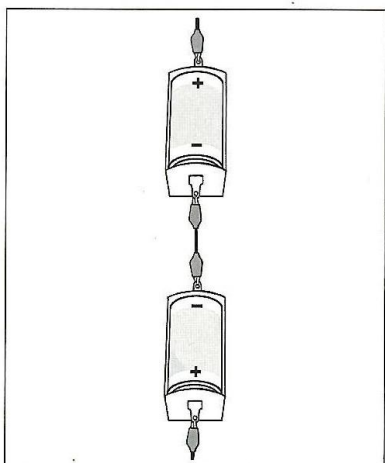
1



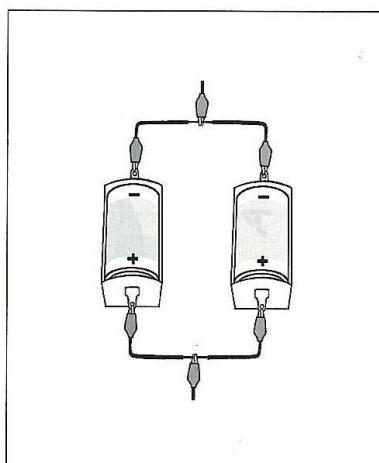
2



3



4



正答 1

乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身についているかどうかをみる問題です。全国平均より 24.4%、県平均よりも 20.6%低い正答率でした。今後は、実際に乾電池をつないで確認するだけではなく、問題にあるようなつなぎ方を実際に試してみたり、ノートにまとめたりしていきたいと思います。

## <埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

### 1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

### 2 調査対象

小学校第4・5・6学年 原則として全児童

### 3 調査実施日

令和7年5月14日（水）

### 4 調査の内容

#### （1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

#### （2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

<教科に関する調査>  は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	12	65.0	62.7	12	68.2	74.9	15	70.8	70.0
情報の扱い方、我が国の言語文化	5	45.3	41.2	4	59.2	64.6	2	67.9	69.9
話すこと・聞くこと・書くこと	9	46.9	46.1	6	41.4	46.4	5	49.5	49.9
読むこと	4	51.0	50.0	8	50.0	56.2	9	43.3	44.2
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑	↑↑↑↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑↑↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	13	69.9	67.3	14	47.6	52.0	13	56.7	59.0
図形	5	66.7	64.9	8	50.5	52.1	8	40.1	43.9
4年測定 5,6年変化と関係	7	70.8	68.2	6	38.2	36.1	7	52.0	54.5
データの活用	6	72.5	62.5	4	45.6	46.5	5	42.6	45.7
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑

＜児童への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」（「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、          は80%以上（%）

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年
○はじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	93.3 91.7	93.9 93.7	94.4 100
	② 授業の開始時刻	88.4 83.3	91.2 78.5	95.4 92.3
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	77.8 70.9	80.7 70.9	87.4 89.7
	④ 整理整頓	81.4 81.9	78.1 67.1	80.2 85.9
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	81.5 77.7	82.0 84.8	84.5 84.6
	⑥ 返事	88.5 86.1	91.1 84.3	93.6 96.2
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	88.7 80.6	90.3 89.9	92.9 91.1
	⑧ やさしい言葉づかい	85.5 84.7	86.9 88.6	89.4 93.6
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	82.4 81.9	85.9 79.7	89.7 92.3
	⑩ 話を聞き発表する	83.8 82.0	83.2 82.3	83.7 82.0
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	82.9 76.3	84.6 76.0	87.8 91.0
	⑫ 掃除・美化活動	87.7 88.9	87.3 82.3	88.9 89.8

## 本校の学力向上の取組

### 授業における取組

#### ■ 1 学ぶよさを実感する学習の展開をします。

- (1) ティームティーチングや少人数指導などきめ細かな指導をします。
- (2) 児童自ら学習課題を立て、振り返り時に学びの内容を明確にする活動を意図的に  
行い、その授業時間での学びのよさを児童に実感させます。
- (3) 児童の考える・学び合う・集中して取り組む時間を設定し、思考活動を充実させ  
ます。
- (4) スモールステップのめあてを設定し、児童に「できた・わかった」という達成感  
を味わわせます。

#### ☆ 2 学習環境を整え、児童が安心して学べる環境づくりをします。

- (1) 年間指導計画のもと、学習内容に合わせて様々な形態（ペア・グループ・クラス  
全体・TT・少人数など）で学習に取り組むようにします。
- (2) ICT機器を効果的に活用するだけでなく、ネットモラル・情報活用能力等も指  
導します。
- (3) 教員による評価だけでなく、児童自身による自己評価や、児童同士による相互評  
価を日常化します。

### 授業以外の取組

#### ☆ 1 学習習慣を定着させます。

- (1) 児童自らが学習の見通しをもって、振り返りを行う学習習慣を身につけさせる  
ために、家庭と連携した自主学習（家庭学習）をより一層充実させます。
  - ・ 学習環境を整え、学習の習慣をつけましょう。
  - ・ 自分から計画的に取り組みましょう。（学年×10分+10分）

#### ■ 2 読書活動を充実させます。

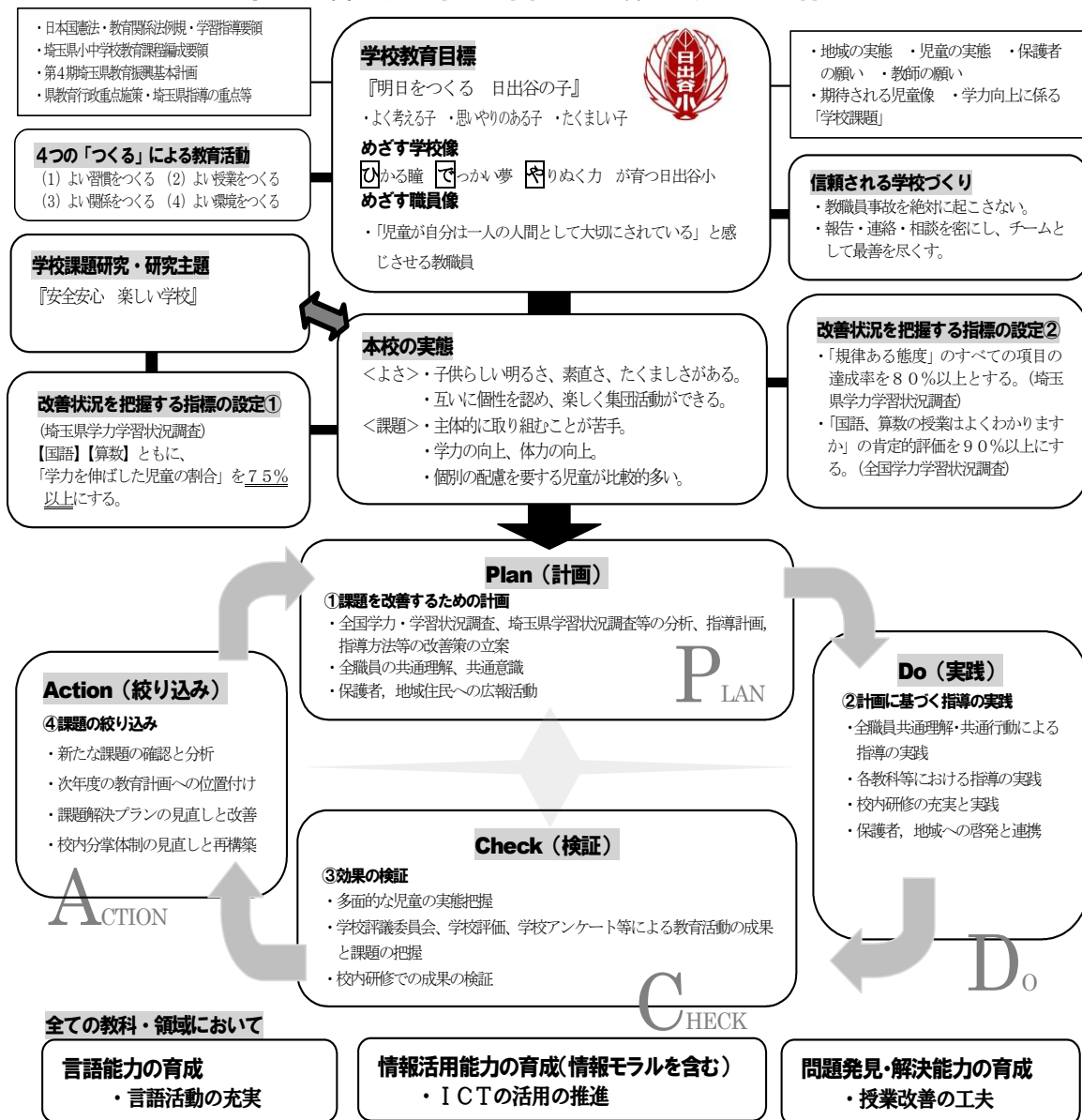
- (1) 本の世界（朝読書）では、全校一斉で図書ボランティアによる読み聞かせ・縦割  
り班を活用した異学年読み聞かせを行ったりすることで、基礎的・基本的な知識・  
技能の習慣につながる読書習慣の確立を図ります。
- (2) 読書月間を設定し、図書委員や教員のおすすめの本、多読賞、読書の木、読書ビ  
ンゴ等で読書を促し、豊かな心を育みます。

#### ☆…成果を上げたと考えられる取組

#### ■…課題を解決するための取組

# 本校の学力向上プラン

## 令和7年度 桶川市立日出谷小学校 学力向上全体計画



### 改善の観点(具体的な取組)

	I	II	III	IV	V	VI
改善の観点	指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	教育課程への対応の工夫	学習評価活動の工夫	校内研修の計画と実施の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
取組の基本方針	児童が学ぶよさを実感する学習の展開をする。	日出谷小の実態に合った特色ある教育課程を編成し、教師の授業力を高め、学力の向上を目指す。	年間指導計画等を計画的に実施する。	児童一人一人が意欲をもって取り組み、子供たちのよさを伸ばすことができるように指導と評価の一体化を図る。	研究テーマに迫るため、全教職員共通理解を図り、授業発表を通して研究を深め、教師一人一人の授業力を高める。	保護者の立場・受け取り方を考えた情報発信をし、児童が保護者へ、「学んだこと・よかったこと」を伝えられる指導を行う。
課題解決のための具体的取組	・児童自ら学習課題を立て、振り返り時に学びの内容を明確にする。 ・授業時間での学びのよさを実感させる。 ・考える・学び合う・集中して取り組む時間の設定 ・スモールステップのめあてを設定する。	・各教科、各学年間の系統的・発展的指導の工夫 ・単元の配当時間の工夫 ・PJ 教員を活用した若手教員の指導力の育成 ・放課後の授業準備時間や教材研究の時間確保	・年間指導計画の見直しと改善 ・教材教具の作成と工夫 ・言語活動の充実を図る指導計画の作成と実施 ・情報の選択、活用方法や情報モラルの指導の工夫 ・「褒めて伸ばす」教職員の児童の人権を守る言動	・学習のよさの明確化 ・単元テスト、ワーク、プリント等の工夫と実施 ・評価、評定の規準や手立ての工夫 ・自己評価、相互評価など評価方法の工夫と改善	・PDCAサイクルを意識した研修計画の立案 ・研究課題の創意工夫 ・校外授業研究会の実施 ・市教育委員会等関係機関との連携 ・発達支持的生徒指導に意図して取り組む。	・学校運営協議会の活用 ・「日出谷小のよさのつくそく」の周知、徹底 ・「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習の啓発と学習習慣の定着 ・生活習慣の改善を図る家庭教育の啓発
関連する行事等	・課題研究推進委員会 ・授業研究会 ・校内研修	・校内研修 ・企画委員会	・校内研修 ・企画委員会 ・教科領域等部会	・校内研修	・校外授業研究会 ・県・市教委、学校間で授業公開、授業研究 ・市教科授業研究会	・学校公開・学校見回り ・授業参観、懇談会 ・個人面談

## 保護者・地域の皆様へ

日頃から日出谷小学校の教育活動にご支援・ご協力いただきありがとうございます。本校では、「明日をつくる 日出谷の子」の目標のもと、意欲をもって取り組む「よく考える子」、自他を尊重する「思いやりのある子」、ねばり強い心をもった「たくましい子」を目指し、「自己存在感の感受への配慮」、「安心・安全な風土の醸成」、「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」にも意識して取り組んでいます。また、基礎的な学力の向上を特に重視して、指導しています。学力向上は、学校だけではなく、家庭・地域が連携することで実現します。そのため、学校から発信する各種のお手紙や課題として取り組んだものに目を通していただき、学習内容をお子さんと確認していただけると助かります。これからも本校の教育活動にご理解いただき、ご支援・ご協力よろしくお願いいたします。

### ☆家庭生活において

①学習に集中できるようにするため、規則正しい生活習慣を身に付けさせましょう。

- ・早ね、早起き、朝ごはん
- ・時間の使い方（ゲーム・テレビ等）を家庭でのルールとして決めて下さい。

②宿題だけではなく、家庭学習に取り組ませましょう。

- ・学年×10分＋10分を目安にしましょう。

（例：2年生は30分、4年生は50分、6年生は70分）

③持ち物を準備させましょう。（忘れ物をなくしましょう。）

- ・授業で必要なものをしっかり用意することが学習の一步です。忘れ物をなくするためにご家庭での声かけをよろしくお願いします。